

豚熱ウイルスに感染した野生イノシシにおける 病理組織学的及び免疫組織化学的分析

野崎 陸^{1)†} 佐藤遼太¹⁾ 白鳥孝佳²⁾

- 1) 山形県中央家畜保健衛生所 (〒990-2161 山形市漆山736)
2) 山形県農林水産部畜産振興課 (〒990-8570 山形市松波2-8-1)

(2022年7月25日受付・2023年1月12日受理・2023年5月20日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/5/76_e110/article-char/ja

要 約

山形県内で発見された豚熱ウイルス (CSFV) 感染野生イノシシの扁桃, 口蓋腺, 脾臓及び腎臓について病理組織学的検索を行った. 肉眼所見は削瘦 (7/12頭), 脾腫 (4/12頭), 脾臓辺縁の暗赤色化 (1/12頭), 腎臓の点状出血 (2/12頭), 病理所見は脾臓のリンパ球減少及び出血, 腎臓間質の単核細胞浸潤及び出血が認められた. 免疫組織化学的検査では, 扁桃 (10/10頭), 口蓋腺 (9/9頭), 脾臓 (12/12頭), 腎臓 (12/12頭) でCSFV陽性抗原が検出された. 本調査の結果は病原性が中等度とされているCSFV国内流行株感染豚における報告と類似していた. CSFV抗原は扁桃, 口蓋腺, 腎臓で認められたことから, 唾液及び尿中にウイルスを排泄し, 野生イノシシ個体群におけるCSFVの感染源となっていたことが示唆された. —キーワード: 豚熱 (CSF), 豚熱ウイルス (CSFV), 野生イノシシ.

----- 日獣会誌 76, e110~e115 (2023)